

会 議 録	
会議名	第2回 伊予市健康づくり推進協議会
日 時	平成 24 年 11 月 29 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 10 分
場 所	伊予市保健センター
出席者	会長：稲田委員 副会長：佐々木委員 日野委員 正兼委員 秦泉寺委員 早田委員 大西委員 西田委員 松原委員 岡田委員 井上委員 武田委員
欠席者	松本委員 徳田委員
議 題	1. 伊予市健康づくり計画（素案） 2. その他
会 議 概 要	
	— 開会・午後 1 時 30 分 —
事務局	<p>それでは時間となりましたので始めたいと思います。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。ただいまから、平成 24 年度伊予市健康づくり推進協議会を開催いたします。開催にあたりまして、稲田会長よりご挨拶をお願いします。</p>
会長	<p>だんだん寒くなってきています。インフルエンザが流行る前に、体調にご留意いただき、健康にお過ごしください。</p> <p>私の母が 7 年半完全に寝たきりで、自宅で介護をしてきたわけですが、理想から言えば、亡くなる直前まで健康で元気で動けるのが一番良いと思うのですが、なかなかそうはいきません。国の施策も、長寿というより健康、いわゆる予防を中心に施策が進められております。</p> <p>今日は、健康づくりの一番の基礎になることの提案を皆様にしていただいて、今後の伊予市の健康づくりの基礎をつくりたいと思います。よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。今日は、2 人が傍聴をされていますので、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、議事に移りたいと思います。本会の議長については、伊予市健康づくり推進協議会設置要綱第 6 条により、会長が務めることとなっていますので、これからの進行は、稲田会長よろしくをお願いします。</p>
会長	<p>それでは、議事に入りたいと思います。前回、色々と資料を説明していただいたのですが、今日は計画案について、皆さんから具体的なご意見を賜りたいと思います。</p> <p>それでは、計画案について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【資料「伊予市健康づくり計画（素案）」の説明】</p> <p>【国保運営協議会協議内容報告】</p>
会長	1 章から 5 章について、ご意見があればお願いいたします。
委員	32 ページ、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」の目標値が 2 つあります。1 つは「自分が健康であると自覚している期間の平均」ということで、平成 35 年の最終目

	<p>標は「平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加」とされていますが、平均寿命が増加するかどうかは分からないのではないかと思います。どちらかといえば平均寿命は下がり始めているのではないかと思いますので、この表現はどうかと思います。別な表現の方が良いのではないかと思いますのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>国の示しているもので、市としてもここに独自性をどう出して良いのか分からないところもありますので、またぜひ県の状況を教えていただければと思います。</p>
委員	<p>平成35年まで平均寿命が増え続けるというのを前提に考えるのであれば構わないのですが、本当にそういう言い方で良いかどうかということなので。</p> <p>平均寿命が増え続ければ問題ないのですが、途中で左右されるような最終目標ではなく、もう少しシンプルに、例えば「健康であると自覚している期間の平均を延ばす」とかの方が良いのではないかと思います。繰り返しになりますが、実際のところ平均寿命が増え続けるかどうか分からないと思うので、増え続けるのを前提に目標を設定している表現は適切ではないと思います。</p>
委員	<p>県からこういう表現が出ているのですか。</p>
事務局	<p>国の示している表現なので、ぜひ皆さんのご意見を頂戴したいところなのですが。</p>
委員	<p>中身そのものがどうということではなく、平成35年まで平均寿命が増え続けるのであれば構わないと思うのですが、その辺りを考えると、こういう表現はどうかと思っただけです。</p>
事務局	<p>分かりました。市民の方々に分かりやすい表現ということで、目標を「健康な期間を延ばす」ということで、その言葉を採用させていただいた方がよろしいかと思います。他の委員の皆さんからも、ご意見をいただければと思います。</p>
委員	<p>具体的な数値は挙げられないと思うので、延ばしていくということが分かれば良いのではないかと思います。</p>
委員	<p>そうですね。</p>
事務局	<p>32ページ、35年の最終目標の「平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加」を、「健康な期間を延ばす」という表現に変更させていただけたらと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
会長	<p>他にご意見はありませんか。</p>
委員	<p>数値がたくさん目標値として使われているのですが、この統計上の数値は、全国規模でも県規模でも、2年後ぐらいになるという気がするのですが、そうなった場合に中間評価をすれば、データが少ない中であるのか、経過してからするのか、そのあたりはどうなのか気になります。</p>
委員	<p>その時点で使えるデータということになります。おっしゃられたように、ものによって多少は違いますが、実際は2年前までのデータとかになります。その年のデータを使う、1年前のデータでもなかなか難しいと思います。まして国のデータとなると、とても揃えられないと思います。</p>
委員	<p>仕方ないですね。</p>
委員	<p>言葉が分からないのですが、32ページの目標値の出典A、Bとあるのは、どこのことか。</p>

	<p>特定健診の受診率が今は 22.9%で目標が 60%、前期の 30%が達成できなかった反省点を書いた方が良いのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>出典については、95 ページに一覧表を載せています。AからMまで非常に多いのですが、これを参考にさせていただけたらと思います。</p>
委員	<p>Aであれば、平成 24 年度健康に関するアンケート調査を見たら分かるということですか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員	<p>その資料は、どこにあるのですか。</p>
事務局	<p>前回お示しさせていただいたアンケート報告書です。</p>
委員	<p>分かりました。</p>
事務局	<p>受診率の伸び悩みについては、国保運営協議会でも多々ご意見を頂きました。既にアンケートから結果が出ており、高受診率の他市町の状況を参考に取り組んではどうか等いただきましたが、普段の健診活動の中で、高受診率地域の状況について、担当者会議でいろいろと情報交換をし、参考にしながら受診率向上のための啓発活動や電話での勧奨、健診会場の工夫、健診日数の配慮等、努力を重ねた結果が、このような結果ということ。今後も、様々な形で受診率向上に向けて取り組んでいきたいということで、新しいセンターにもなりますし、受診体制の見直し等も実施して、より受けやすい体制づくりを検討していきたいと思っています。また、国保運営協議会の中で、受診率内訳の見直しについても協議いただきましたが、具体的に愛媛県内統一して取り組んではどうか、ということで検討に入っています。実際に可能かどうかは、なかなか難しい点もあろうかと思うのですが、また皆さんのお知恵もお借りしながら、受診率の見直し、受診率向上への取り組みを進めていきたいと思っています。22%から 60%という非常に高い目標ですが、これが国の設定した目標ですので、市の目標としても高い目標でスタートしたいと考え、このような目標値を設定しています。</p>
委員	<p>現実には高い目標かも分からないですね。分かりました。</p>
事務局	<p>よろしくお願いします。</p>
会長	<p>他にご意見はありませんか。</p>
委員	<p>42～44 ページ、伊予市は肝炎が非常に多いとは聞いていたのですが、私もこれほどとは思いませんでした。管内の肝がんの SMR が倍と大きく、国民健康保険の協議会の委員の意見の中でも、伊予市の独自性というか、愛媛県の中でも飛び抜けていますよね。もう少し肝疾患に対する対策を、平成 35 年までにできるかどうか分からないですが、国の平均値程度に絞れるよう、受診率を極端に引き上げるとか、市としてやらないと間に合わないのではないかと思います。他の部分はそこそこいつているのではないかと思います。肝炎を見ると、非常にひどい数値なので、これは、市として取り組まないといけないのではないかと思います。</p>
事務局	<p>確かに、伊予市の健康課題として、大きなウエイトを占めると思います。市としては、昭和 50 年代から肝疾患対策に取り組んでいますが、それだけ続けても、なお高い状況を維持しているということで、非常に重要な課題だと思いますので、力を</p>

	<p>入れて取り組んで参りたいと思います。受診率向上が何より大事だと思います。44ページの取り組みの方向にも「生涯に一度は肝炎ウイルス検診を受けよう。」と掲げているように、これがスタートになるかと思いますが、その徹底を図っていただきたいと思います。</p>
委員	<p>受診率を増やすとか減らすとかではなく、具体的に、極端な数値とは言わないですけど、ある程度数値を入れて、できるか分かりませんが、市の予算を突っ込んでいくとか、計画ができたからお金もかけられるのではないかと思いますので。</p>
委員	<p>SMRの数値はなかなか出ませんが。</p>
委員	<p>数値が入れられるのであればと思います。</p>
委員	<p>受診は有料でしたでしょうか。</p>
事務局	<p>無料のままです。</p>
委員	<p>B型、C型の検査で、1万人あたり53人とか38人というのは、新規の方ですか。</p>
事務局	<p>43ページは新規になります。上段の22年度が新規で、その下の段は累積値。2段目にあるB型肝炎とC型肝炎の帯グラフは、累積値です。</p>
委員	<p>今の若い人は、B型であればキャリアの状態をインターフェロン治療で、皆が皆、治療できるわけではないですが、うまくいけばウイルスを排除できるというか、もともとの肝臓がんの大きな原因を除去する治療ができるようになってきています。そういうものが行き届けば、今後の肝臓がんによる死亡を減らしていく手だてにはなると思います。ただSMRを減らすのは一朝一夕にはいかないで、ウイルス検査を受診して、陽性者が適切な医療機関で治療を受けるということを積み重ねていけば、減っていくことにはなると思います。平成35年までにSMRをどうこうというのは、ある程度減らす、結果的には減ることはあっても、なかなか100前後ぐらい、平均のところまでを平成35年までにというのは、難しいかもしれません。</p>
会長	<p>色々意見が出ましたが、他にご意見はありませんか。</p>
委員	<p>現在出された意見で、今度、新総合保健福祉センターができますよね。これを国保運営協議会の意見の中で有効利用と書いてありますが、計画の中にその言葉を入れておいたらどうかと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>54ページの(6)で、「分かりやすい周知案内・総合保健福祉センター健診の定着」という文言は入れているのですが、確かに、環境整備として新たな施設ということで「健康を支え、守るための社会環境の整備」のあたりでも、75ページにも入れておくと、妥当な取り組みになるのではないかと思います。75ページの「行政の取り組み」として、「総合保健福祉センターを有効活用して、健康づくり活動の充実を図る」と載せたらと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>1ページの「計画策定の趣旨・背景」と、推進にあたっては、総合保健福祉センターをその活動の拠点として充実を図る、という内容でまた検討させていただいたと思います。</p>
会長	<p>他にご意見はありませんか。</p>
委員	<p>90ページの歯科に関して、虫歯の数が年々減っています。フッ素洗口などの施策によって、ようやく0.21本という数値になっています。他の地域はどうであれ、伊</p>

	<p>予市だけは、口の中は先進国であると思って良いと思います。伊予市歯科医師会としては、ある程度目標を達したので、次の目標を今考えています。それが、よく健診などで見かける口呼吸の問題です。普通は口を閉じて鼻だけで呼吸するのですが、口が開いてしまうわけです。そういうお子さん方は、だいたい猫背で姿勢も悪いです。口をちゃんと結べているお子さん達は、背筋が曲がらず真っ直ぐです。姿勢の問題にもつながるようです。まだ初期段階ですが、口呼吸についてアンケート調査を通じて追跡しています。今年の秋に、日本の歯科医師総会でパネル展示をして、発表もさせていただきました。中山の高橋先生が中心になったのですが、大変注目をしていただいております。</p> <p>先日の国保運営協議会で出たのですが、その中で80ページの「楽しく手軽に身体を動かそう」で従来の職員の数を減らして、その分を専任職員に回してはどうかというような意見が出たのですが、そういうことに私は少し疑問に思います。地域の話ですから、地域で非常に元気で生き生きしている人たちが、身近に皆知っているはずなんです。その人をリーダーとして中心にして、地域でそういう集まりをして、楽しく手軽に身体を動かすということをやれば良いわけです。</p> <p>私は歯科開業医ですから、観念的なことはあまり得意ではありません。具体的にどうすれば良いのかということは一生懸命いつも考えています。先ほども、新総合保健福祉センターができるということで、看板としてはそれで良いと思いますが、やるのは人間ですから、発展させる人は熱心にそれに取り組まないと、看板倒れになります。そういう人材を、地域の人材を発掘するのが行政の役目です。そういうことが必要なのではないかと思います。</p> <p>あと、漠然としたことですが、64ページの「こころのSOS」というところで、精神科にかかって「もしかしたら、私はうつ病かもしれない」という前に、だいたいの人は内科にかかっています。そこで、様々な身体症状を訴えているはずですが、そこで、早めにご家族が気付くかどうかの問題です。なかなかサインが分からない場合もあると思いますが、そのあたりをどう、「心」というのは漠然としていますから、わずかな身体症状や変化の異常に気が付いてあげられるかどうかだと思います。</p> <p>それから78ページ、食事についてすごくいいことが書かれています。一人ひとりの取り組みで「家族そろってご飯を食べよう」と。これが人間をつくります。食べるものを介して、他の人たちとの共感を得る。これをしっかりしないと、1人でご飯を食べる孤食という状態になるわけです。聞いたことがあると思いますが、それはどう考えてもおかしいです。人間になるのは、みんなと一緒に食事をするからです。このことを、行政とか地域として取り組むというもの、表現しづらく、難しい問題ですよ。</p>
会長	ありがとうございました。
委員	<p>色々とお聞かせいただいたのですが、私が気になっているのは、伊予市で介護保険給付費が県内第2位ということで、あまり自慢できることではないようですが。健康で長生きするという、平均寿命と健康寿命の差を小さくしようとする取り組みが考えられているのですが、その取り組みとして、市として、循環器疾患やロコモティブシンドローム等を重点項目として具体的にどうやっていくかということ、</p>

	伊予市の特徴として出していくのも良いのではないかと思います。実際に何をやったら良いかというのは、なかなか今のところ思いつきませんが、ひとつ取り組んでいったらと思います。
会長	他にご意見はありませんか。
委員	<p>最初から最後まで目を通したのですが、同じようなことの繰り返しで、こういうことに気を付けないといけないということだけの様な気がします。私としては、最後の連携が一番大事なことではないかと思います。役所内の横の連携をしっかりして、これがスムーズにつながれば良いと思います。</p> <p>最近、近所で多いのは、「自分は元気だから大丈夫」と過信している人で、何人かお聞きしているのですが、「もっと早く健診を受けていたら良かった」と皆さん言うのですが、自分でおかしいと思う前に、健診を受けて自分の健康をチェックしていくことが大事だと思います。ただ紙の上で「健診があるので受けてください」と言っても、あまり受けないのではないかと思います。何年か前ですが、私が健診の案内チラシを持って、1軒ずつ回ったことがあります。そしたら、「来てくれたので受けようか」と言う方が結構いまして、直接顔を合わせて口伝いに言うと結構受けてくれるものだと思います。これからも、何かの機会があれば伝えていって、皆が健診を受けられるようにしたいと思います。</p> <p>長生きしても、元気でなければ意味はないと思います。元気で長生きできるよう、年を取っても、家にこもらないで出かけて、笑う場所をどこかに作ったり、自分達でどこへ行けばそういうことに出会えるかも考えて、なるべく出かけて行けるような状態に、ご近所の皆さんが協力してやっていけたらと思います。</p>
会長	どうもありがとうございました。他にご意見はありませんか。
委員	<p>直接関係ないかもしれないですが、主婦目線でこの計画に入れていただきたいと思ったのは、学習の機会があっても、関心のある中心部に住んでおられる方は、比較的勉強にも来られるし、色々な体験もされています。私は山間部に住んでいるのですが、どこに行っても山間部の方の出席は少ないです。目標は受診率 60%と高い目標を掲げても、実際は 20%程度で、どうしてももう少し意識が高まらないのかと思います。なぜ健診が必要なのかを知らせる良い方法がないかと、従来どおり広報やらホームページに載せても、私も含めてですが、高齢者が一体どこまで関心を持って見られているか分かりません。機会があるごとに、皆さんの前で、こうした紹介をすとか、もう少し何か方法を出して、健康に関する意識を高めることができればと思います。</p> <p>それと、アンケートの中にも、運動とかレクリエーションで、公園などの施設の環境整備が大切という回答があったのですが、身近なところで、ちょっと出かけて皆で手足を動かせるとか、街中に住んでいなくて田舎に住んでいても、そういう雰囲気作りについて何か取り組んで、健康づくりを広げる方法はないかと思います。</p>
会長	ありがとうございました。他にご意見はありませんか。
委員	計画書として立派にできつつあると思うのですが、やはり、いくら立派な計画書を作っても、それを市民に周知・啓発するには、文言よりも、もっと具体的なもので実行していただけたらと思います。受診率の向上とか、諸々の計画書に載って

	いる目標の遂行の上でも必要なことだと思います。
会長	ありがとうございました。他にご意見はありませんか。
委員	やはり、町中は受診率が高いと思うのですが、田舎だと低いですね。山に住んでいると、少し出かけるのもなかなか難しいです。年をとっていると余計そうなるので、もっと近場で健診ができればと思います。
事務局	中山地区は市内では高い受診率で、市内でトップの受診率を保っていただいています。健康づくりの会の皆さん方のご尽力のお蔭だと思います。 昔は小さい集会所で健診をしていましたが、現在は健診のバスがなかなか入りにくいということもあり、施設でやっているのが現状です。
会長	他にご意見も無いようですので、この健康づくり計画についての審議を終了します。どうもありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。 今後のスケジュールについて、今回の素案で大きな変更はないようですので、細かい部分の修正は、会長さんにご一任いただき、事務局で対応させていただきたいと思います。概ね12月上旬には素案の完成予定、庁内会議を経て、住民からの意見公募の手続きを進めたいと考えております。3月中旬には完成ということで、4月からは計画を実施に移せるよう準備を進めていきたいと思います。よろしく願いいたします。 最後に、閉会の挨拶を副会長からお願いします。
副会長	長時間にわたり、どうもありがとうございました。 「いきいき健活、増やそう笑顔」を目標に今後もやっていきたいと思います。 せっかく来ましたので、1つアドバイスをします。おかずは、野菜から先に食べた方が良いでしょう。特に糖尿病には効くそうです。
事務局	どうもありがとうございました。 それでは、これで終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。
	— 閉会・午後 3 時 10 分 —